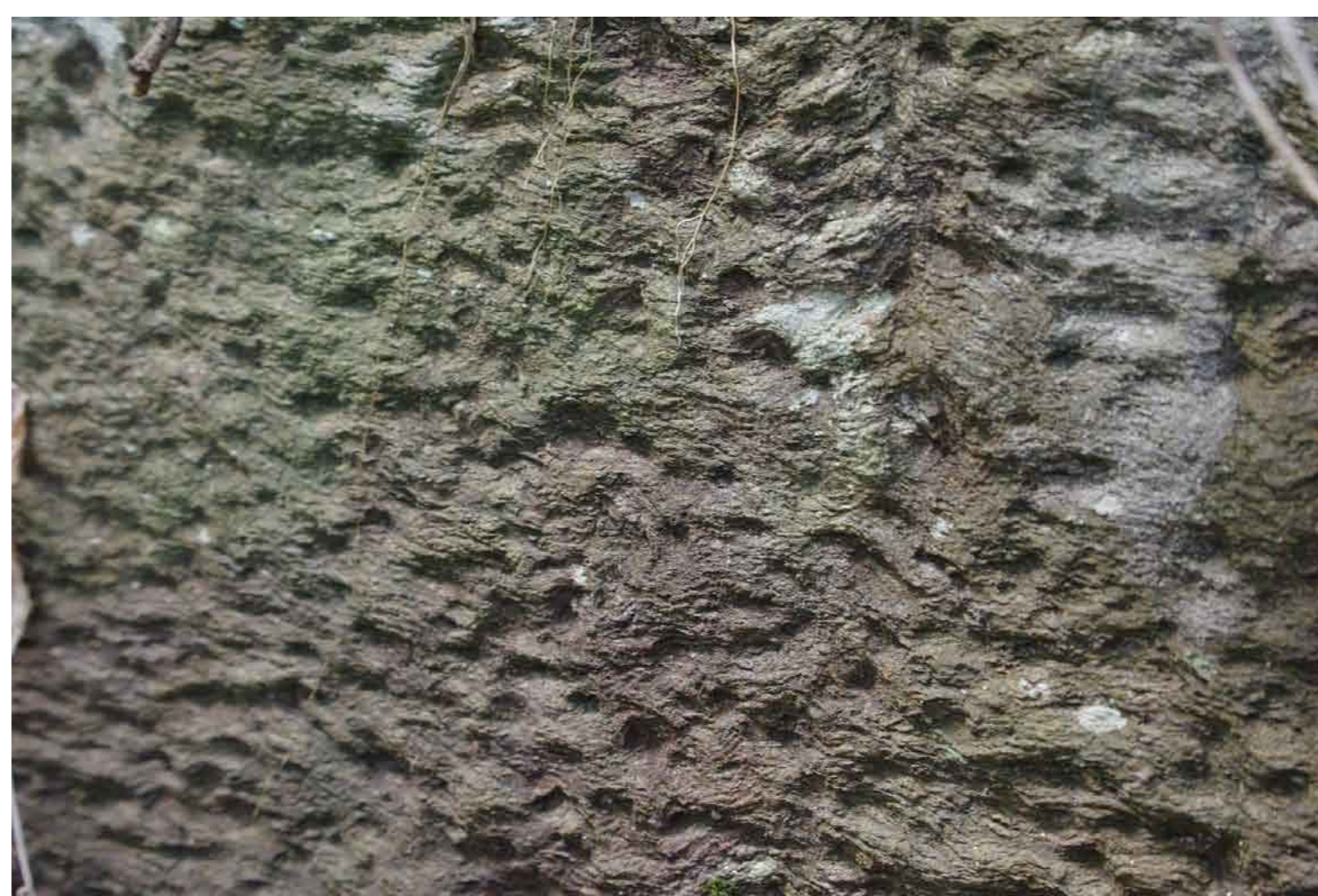


# 高良山神籠石をめぐる

高良山（標高 312m）の西斜面には、五つの<sup>みね</sup>峯があります。これを繋ぐように、方形の石が連なっています。

この列石は、土を盛り上げて造る<sup>どるい</sup>土塁の基礎部分に並べられたものです。本来は、高さ 2～3 m 程の土塁（城壁）であったものと思われます。その全長は、推定 2.5～3 km にもなる長大なものです。

土地が低い谷部分は、敵が攻めてきた時、最も弱い部分といえます。高良山神籠石には、2カ所の谷があります。この部分は土塁ではなく、より強固に石を積み上げていた（<sup>せきるい</sup>石塁）ことがわかっています。



■ 大学稲荷前の列石の様子と石材の表面。工具を使い細かく加工して表面を平らに仕上げています。

